

植田 現行のポンプは容量が少ないので大きいものに取りかえて欲しいと要望していると聞いています。老朽化、増設を含め見解をお伺いします。**土木建設課長** 現在本市は、内水排除のためのポンプは所有していない。大規模な内水排除が必要な地区については、排水能力の高い大型のポンプ施設が必要で、国、県と連携し早目に対応が必要と考えてます。

植田 水害で集落が消滅するというようなことも言われております。実際、「高齢だから今回は家の再建はどうしようかと悩んでいる」「子供に帰ってくれと言にくい」と言う声も聞いております。実際、浸水被害が集落消滅の引き金になるだけに、築堤も含めた、防災対策が急がれます。

消費生活センターについて



近年、訪問や通信、ネット販売など販売方法が多様化する中で、消費者被害も多様化をしています。架空請求やネットオークションで買ったブランド品が偽物だった、悪質な訪問販売で商品購入、トラブルが解決しないなど様々なケースの消費被害が発生をしています。又、日常の買い物で価格が適当なのか、商品の偽装表示という問題は個人的に容易に知ることが難しく、日常的な消費者被害は起こり得る可能性が有ります。高齢者を狙った振り込め詐欺や還付金詐欺など被害防止の啓発が行われていますが、手口も巧妙、多様化する中で依然として被害を受ける方が多くおられます。衣食住を満たし、文化的で人間らしく生き、生活するために、消費は必ず行わなければならない。安心・安全な消費生活を行うために消費に関する情報を集約し、関係機関への情報提供をし、消費生活被害の拡大防止に努めていかなければならないと思います。苦情相談の特徴、相談件数をお伺いします。

総務課長 昨年度、県の消費者センタールで受け付けた3,923件の内、江津市の方からの相談件数は112件で、市で直接受け付けたものが6件ありました。

相談内容は、インターネットのサイト利用料に係る不当請求、架空請求などのデジタルコンテンツ関係、主に高齢者を対象にした不審な電話や、架空請求、訴訟通知などに関する事が半数を占めている状況です。相談者の年齢は、60代が32件と最も多く、70代16件、50代と80代が14件、相談者の7割近くが50代以上で、特徴は、県全体を見ても同様の状況です。

植田 消費者ホットラインは全国で運用されており、江津市は接続されていると思いますが、消費者トラブルが多様化、巧妙化する中で、トラ

ブルに対応する問題点や課題点について伺います。

総務課長 消費者行政は、総務課の職員で対応、深い知識の習得、複雑な内容の相談に対応出来ない、知識の蓄積で課題であり、相談内容で1件に長時間かかり、他の業務に影響が生じる事も有った。

今年度から、嘱託職員1名雇用し、週4日の勤務体制と消費生活相談専用のメールアドレスを開設し、受け付けも開始しております。また、インターネットを利用し、県消費者センターとテレビ電話相談が可能な環境を整備し、広報紙で漫画により分かりやすい啓発記事を継続して掲載したりと、相談体制の強化充実に努めています。

消費生活センターの設置を

植田 県内8市で、江津市を含め2市が消費生活センターを設置をしてない。消費者ホットラインと接続し消費者トラブルを解決する能力を高める、消費生活センターの新たな設置について見解をお伺いします。

総務課長 県内8市の中で消費生活センターを設置していないのは本市と大田市の2市です。県からも早期のセンター設置を求められています。相談者の利便性向上のために消費生活センターの設置、それから消費者ホットラインの接続を視野に入れた、相談体制を整えている。相談件数、相談内容の状況を見ながらセンターの設置に向けて検討をしたいと考えています。



快適な教育環境について

次に小学校、中学校の教育環境は、市町村の最も大切な管理業務です。全国的にも設置率100%に近いところもあるれば、6%のところと、自治体によって財政力もありますが大きな「クーラー格差」があるのも実態です。江津市で各校にアンケート調査等を含めて現場の実情や必要性・要望等を把握されていると思います。が、集約、実情をお伺いします。

学校教育課長 普通教室へのエアコン設置の必要性等について、特にアンケート調査は実施しておりませんが、毎年、江津市の校長会から、当初予算に向け、江津市小学校・中学校教育諸条件の整備並びに教育諸活動等助成に関する要望が出されており、継続重点要望の一つとして、教室へのエアコン設置について毎年度要望されております。



教育委員会としても、地球温暖化の影響で、毎年の猛暑日が多くなり、全ての小・中学校で普通教室へのエアコン設置要望は十分承知しております。

植田 今年7月の愛知県の児童が校外活動中に体調不良を訴えて熱中症

で死亡するという事を受けて、文科省の来年度概算要求でクーラー設置促進に向け予算要求し、財源を充実させるとしています。不幸な事態が起きて動き出すことは非常に残念ですが、子供たちの快適な教育環境を整備されることは喜ばしい事です。江津市では小学校7校、中学校4校の105教室が対象、工事完了までのスケジュールと、今後特別教室や屋内運動場について検討されているのかお伺いをします。

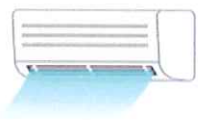
学校教育課長 来年の夏に間に合うよう、国の予算の動向を踏まえながら適切に対応してまいります。

普通教室へのエアコン設置を最優先に考え、特別教室や体育館のエアコン設置は、引き続き関係部署とも協議し検討をしてまいります。

財源の確保について

植田 空調設備工事実施設計業務委託料の補正が計上されています。現在の学校建物自体がクーラー設置する構造となっており、多額の設備コストが必要になると考えます。国の学校施設環境改善交付金では、交付金の算定割合は設備改修コストについて国が3分の1、自治体が3分の2の負担で、工事実施設計によって予算措置となりますが、現時点での予算規模・財源の確保の考え方を伺います。

財政課長 現時点での可能性としては、学校施設環境改善交付金が3分の1補助、起債と一般財源になります。



また、補助事業とならない場合も想定し、単独起債事業になります。事業費、予算規模ですが、エアコン本体、設置工事費、電気工事費で、設計を行って算出しますが、相当な額になります。国の補助が有る無し両方のケースを考え、有利な財源を活用して財政負担の軽減を考えて、実施して行きたい。

植田 クーラーが設置後は、電気代やメンテナンス、老朽化による機器の更新などランニングコストが、市の財政を圧迫する事も懸念をされます。来年度の政府予算の概算要求が大詰めを迎えています。この間、防衛費予算は7年連続で増加し、5兆円を超える過去最大を計上しようとしています。軍事的側面ではなく憲法第9条を遵守した平和的外交努力で防衛予算削減に努め、子供達の育成や教育に予算をつぎ込むべきと思っています。強く地方から国に物を言うことが問われていますし、ランニングコストの予算措置の財源確保の考え方についてお伺いします。

財政課長 電気代、定期的な点検、故障した場合の修繕費と維持管理費は、少しでも節約するという方向性ですが、無駄な使用はしない、温産設定や利用時間の調整などを行って無駄を省く事が重要と考えております。

維持管理費は、基本的に補助金などの交付は難しい。必要なものはしっかり予算づけをしたいと考えております。

使用のガイドラインについて

植田 子供たちの教育に対する予算

をきちつと国に要望し対応していく事も大切です。

運用に当たって、充実した学習環境とあわせてエネルギー問題や温暖化問題を考えることにより、地球環境を配慮した節電意識を一人一人が意識し取り組まなければと思います。

使用期間、稼働時間、使用目安、外気温や設定温度を含めて扇風機の併用、子供たちの体調管理など適切に有効にかつ円滑に使用していくために、クーラーの運用についてのガイドラインなど統一した運用を示す事が必要と思いますが、見解をお伺いします。

夏休み延長、臨時休業日の対応は

植田 文科省は、熱中症対策で夏休み延長、臨時休業などの通知が行われました。実際運用すると問題もあるのではないかと。クーラー設置までの小手先の当面措置ですが、判断のマニュアルなど対応についてお伺いをします。

学校教育課長 夏季休業の期間は小・中学校の管理規則で示されており、校長が必要と認める場合には休業日の総日数の範囲内で変更が可能です。臨時休業も、学校教育法施行規則で、判断は校長が行います。台風などは市内全域に影響がある場合には、校長会と教育委員会が連携し、統一した決定をするようにしております。

児童・生徒の安全・安心が第一です。学校と教育委員会と連携しながら的確に判断していきたいと考えています。

植田 子供達の命を守る事が最優先で、快適な教育環境を切にお願いをします。

最後に、災害対策も含め、行政の目線は常に市民の安全・安心、命と暮らしを守ることを最優先に、健康で文化的な生活を保障する江津市に向け尽力されることを申し上げて、私の一般質問を終わります。



【編集後記】

◆夏の猛暑と少雨は、我が家のさやかな家庭菜園の収穫にも影響を与えました。9月は一転して、台風の連続による大雨の心配が続くなど、自然に逆らうことは出来ませんが、自然を理解し利用しうまく付き合う智慧も必要とも言えます。

◆8月26日江の川レガッタが行われました。今年も以前の職場の仲間とチームを組み参加をし、見事ビギナーの部で3連覇をしました。その結果、来年は、クラスがワンランク昇格です。

(後列一番左が植田好雄です)

